

平成28年度全国学力・学習状況調査を踏まえた 分析と改善方策について

印南町立印南小学校

1 調査の概要

(1) 調査日 平成28年4月19日(火)

(2) 調査の目的

◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

◇児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

◇教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(3) 調査内容

調査の対象 小学校第6学年 34名

教科に関する調査 国語、算数

└ 主として知識に関する問題(A)

└ 主として活用に関する問題(B)

生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

└ 児童質問紙調査 ----- 学習意欲、学習方法、学習環境、
生活の諸側面等

└ 学校質問紙調査 ----- 学校の教育活動全般についての取組や学校の
人的・物的整備の状況

2 教科に関する調査結果の概要

国 語

- 漢字を正しく読んだり書いたりすることは概ね良好であるが、ローマ字の読み書きは全国平均を上回っているが本校としては課題があると考えている。
- 目的に応じて複数の本や文章を選んで読むことはできているが、質問の意図をとらえたり、グラフを基に自分の考えを書くことに課題がある。

(1) 国語A (知識)

- ◇漢字(お年玉を貯金する)を読むのは、ほぼすべての児童ができています。[A1]ー2 97.1%]
- ◇漢字(むだを省くようにする)を読むのは、ほぼすべての児童ができています。[A1]ー3 97.1%]
- ◇漢字(アサガオのたねをまく)を書くのは、すべての児童ができています。[A1]ニ1 100%]
- ◆吃音を含むローマ字(あさって)を書くことに、課題がある。[A8]2 52.9%]

(2) 国語B (活用)

- ◇目的に応じて、本や文章を比べて読むことは、ほぼすべての児童ができています。[B3]ニ 94.1%]
- ◇目的に応じて、複数の本や文章を選んで読むことは、多くの児童ができています。[B2]ニ 79.4%]
- ◆目的に応じて、質問したいことを整理することに、課題がある。[B1]ー 32.4%]
- ◆目的や意図に応じて、グラフを基に自分の考えを書くことに課題がある。[B2]三 38.2%]

平均正答率(%)

学習指導要領の領域等	国語(A)	国語(B)
話すこと・聞くこと	73.5	40.2
書くこと	64.7	51.5
読むこと	79.4	79.4
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	81.2	—

全国平均に比べて5ポイント以上 上回る(青字)・下回る(赤字)

算 数

- 基礎的・基本的な知識・技能を問う問題については概ね良好であるが、領域別の図形に課題がある。
- 根拠となる図形の性質を言葉と記号を用いて記述することや示された情報から基準量を求める場面と捉え、比較量と割合から基準量を求めること、見積もりの結果を基に、根拠となる事柄を記述することに課題がある。

(1) 算数A (知識)

- ◇四則計算することは、ほぼすべての児童ができています。[A2] (1) ~ (4) 91.2% ~ 94.1 %]
- ◇除法における計算の確かめは、すべての児童ができています。[A2] (1) 100%]
- ◇図形の構成要素に着目し、位置関係を理解することは、ほぼすべての児童ができています。[A7] 97.1%]
- ◆割合を百分率で表す場面で、基準量と比較量の関係を理解することは、課題がある。[A9] (2) 32.4%]

(2) 算数B (活用)

- ◇例示された条件を基に他の図形について検討し、同じきまりが成り立つことを調べることは、多くの児童ができています。[B1] (1) 88.2%]
- ◆示された式の中の数値を解釈し、それを記述することには、課題がある。[B1] (3) 17.6%]
- ◆例示された説明文を解釈し、用いられている考えを別の場面に適応し、その説明文を書くことに、課題がある。[B1] (2) 32.4%]
- ◆除法の式と関連付け、角の大きさを基に、式の意味の説明文を書くことに、課題がある。[B5] (2) 0%]

平均正答率 (%)

学習指導要領の領域等	算数 (A)	算数 (B)
数と計算	88.2	41.2
量と測定	76.5	41.8
図形	77.9	38.2
数量関係	62.7	38.2

全国平均に比べて5ポイント以上 上回る (青字)・下回る (赤字)

3 質問紙調査の結果の概要

(1) 勉強が「好き」「どちらかといえば、好き」と思う児童の割合は、国語は全国よりも小さく、算数は全国より大きい。

	国語	算数
学校	44.1	67.7
県	55.6	68.4
全国	58.3	66.0

(2) 授業の内容が「よくわかる」「どちらかといえば、よくわかる」と思う児童の割合は、国語・算数ともに全国や県を上回る。

	国語	算数
学校	85.3	89.2
県	81.2	82.6
全国	80.7	80.2

(3) 平日に授業時間以外に全く勉強しない児童はほとんどいない。しかし、1時間以上勉強をしている割合は、学校 50.0、県 61.6、国 62.5 で、学習時間の短い児童が多い。また、休日に全く勉強しない児童の割合は全国に比べて小さい。

	平日	休日
学校	2.9	5.9
県	3.8	14.5
全国	3.0	10.2

(4) 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを「工夫している」「どちらかといえば、工夫している」児童の割合は、全国・県より大きい。

学校	67.4
県	57.4
全国	62.3

(5)「家の人と学校での出来事について話をしますか」について、「している」と回答した児童の割合は全国・県を下回る。

学校	44.1
県	52.6
全国	52.4

(6) 今住んでいる地域の行事に「参加している」「どちらかといえば参加している」と答えた児童の割合は、全国や県を上回る。

学校	70.6
県	63.5
全国	67.9

(7)「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」について、「ある」「どちらかといえばある」と答えた割合は、全国や県を上回っている。

学校	97.0
県	94.7
全国	94.4

(8)「学校に行くのは楽しいと思うか」について、「楽しい」「どちらかといえば楽しい」と答えた割合は、全国や県を上回っている。

学校	91.2
県	89.8
全国	86.3

(9)「学校のきまりを守っていますか」について、「守っている」「どちらかといえば守っている」と答えた割合は、全国や県を上回っている。

学校	94.1
県	91.7
全国	91.5

(10)「平日、テレビゲーム（携帯等も含む）を2時間以上している割合は、全国や県よりも小さい。

学校	20.5
県	32.4
全国	29.7

4 調査結果を踏まえた改善方策

(1) 国語

A問題 (評価できる点)

漢字の読み書きは、ほぼすべての児童ができていた。定着のために、基礎学タイムや和歌山県漢字の博士試験に取り組んできた成果と考える。今後とも、基礎学タイムや漢字の博士試験への取り組みを継続・強化することで、基礎基本の徹底や語彙力アップにつなげていきたい。

(改善を必要とする点)

ローマ字の読み書きについては、学習してかなりの時間が経過しているため、正答率が低い。そのため、復習の機会を計画的に設ける必要がある。総合的な学習の時間での情報教育等を活用し、ローマ字について復習する機会を設けるなど、意図的・計画的な指導を続けていきたい。

B問題 (評価できる点)

目的に応じて、本や文章を比べて読むこと、目的に応じて、複数の本や文章を選んで読むことは、多くの児童ができている。これからも、読書の大切さを指導するとともに、読書機会を増やしていきたい。

(改善を必要とする点)

質問したいことを整理すること、目的や意図に応じて、グラフや表を基に自分の考えを書くことに課題がある。そのため、目的に応じて必要となる情報を取り出し、それらを関係付けて、条件に合わせて書く機会を設け、取組を進めていきたい。

(2) 算数

A問題 (評価できる点)

四則計算すること、計算の確かめ、図形の構成要素の位置関係（三角形の底辺と高さ、直方体の面と面に位置関係）は、ほとんどの児童ができていた。定着のために、基礎学タイムや補充学習に取り組んできた成果と考える。また、算数用語の習得の徹底など基礎基本を大切にしていきたい。

(改善を必要とする点)

割合を百分率で表す場面、基準量と比較量の関係を理解することに、課題がある。百分率の導入時、活用する場面設定を工夫するなど、学習意欲を高める工夫をしていきたい。

B問題 (評価できる点)

例示された条件を基に他の図形について検討し、同じきまりが成り立つことを調べることは、多くの児童ができている。今後とも、授業展開の中で

このような機会を多く設けていきたい。

(改善を必要とする点)

示された式の中の数値を解釈し、それを記述すること、例示された説明文を解釈し、用いられている考えを別の場面に適応し、その説明文を書くこと、式の意味の説明文を書くことに、課題がある。授業の中で数値のもつ意味を考える機会、問題解決の流れの説明を記述する機会を多く設けていきたい。

(3) 質問紙

質問紙では、(7)「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」について、「ある」「どちらかといえばある」と答えた割合は、全国や県を上回っている。(8)「学校に行くのは楽しいと思うか」について、「楽しい」「どちらかといえば楽しい」と答えた割合は、全国や県を上回っている。(10)「平日、テレビゲーム(携帯等も含む)を2時間以上している割合は、全国や県よりも小さい。等のよさが見られた。

しかし、(1)勉強が「好き」「どちらかといえば、好き」と思う児童の割合は、国語は全国や県よりも小さい。(3)1時間以上勉強をしている割合は低く、学習時間の短い児童が多い。という課題が見られた。

学習意欲のさらなる向上、長時間ゲーム・テレビ視聴の抑制、宿題・家庭学習の定着に向け、さらに家庭との連携を図っていきたい。

4月より学力向上の具体的な方策として、以下の3点を重点に取り組んできた。今後実施される県学習到達度調査等の結果をもとに検証し、さらに修正・改善しながら、取り組んでいきたい。

① 質の高い授業づくりを組織的に進め、わかる授業、力のつく授業を創る。

- 「自ら考え、学び合う子どもをめざして～算数科を通して自分の考えを表現できる子どもの育成～」を研究主題として、全教員が、一人1回以上の研究授業を行い、教員が互いに参観し協議を行う。
- 1時間の授業を大切にして、「和歌山の授業づくり基礎・基本3か条」である本時のめあての提示、自分の考えを書く時間の確保、まとめ・振り返りの時間の確保等、授業の基本スタイルを確立する。
- TT指導、少人数指導、個別指導を行い、指導方法の工夫改善を図る。
- 学力調査の分析をし、その分析結果を授業改善に生かす。
- Q-Uテストを実施し、一人一人を把握することに努め、学習や生活の基盤となる学級集団づくりに取り組む。

② 全職員が学習規律を共通理解し、徹底した指導で確立を図る。

学びのセーフティーネットを充実する。

- 「印南っ子学びのワンツースリー」を活用し、学習規律の徹底を図る。
- 基礎学タイム、補充学習の時間（隔週：４～６年）、放課後や夏季休業中での補充学習を実施し、担任のみならず、組織として全職員で取り組み、基礎学力の定着を図る。
- 定期的な既習学習内容の復習やチャレンジ確認シートの活用を徹底を図る。
- 読書環境を整え、読書活動の充実を図る。集会での図書委員による「おすすめの本の紹介」「新刊図書の紹介」「図書委員による読み聞かせ」、地域の方々による「読み聞かせ」等を行い、読書活動の意欲付けを図る。

③ 家庭学習の習慣化に取り組む。

- 家庭学習の点検をし、宿題忘れ等、家庭と連携するとともに、家庭学習の手引き（保護者向け、児童向け）を学期ごとに配布し、学習習慣の確立を図る。
- 自主学習の習慣を身に付けさせるとともに、漢字博士検定試験を学期ごとに行うなど、学習意欲の向上を図る。
- 基本的な生活習慣の確立のため、長時間ゲーム、テレビ視聴等の弊害について、個別面談や様々な機会に家庭への啓発を行う等、家庭との連携を図る。

※一部を取り出しての２次利用、また再配布を禁ず。 印南町教育委員会